

4. 授業科目及び履修・登録

【人間文化研究科 人間文化専攻(修士課程)】

(1) 授業科目の履修・登録について

1. 授業科目の区分

- (1) 授業科目は、基礎科目、専門科目、演習科目からなっている。
- (2) 授業科目の構成と本年度開講される科目は、「2024年度開講科目表」のとおりである。

2. 単位制

- (1) 授業科目の履修は単位制によって行われる。各科目の単位は「2024年度開講科目表」のとおりである。
- (2) 半年の場合は、毎週2時間（1コマ）の授業で、講義・演習ともに2単位である。
- (3) 学年始めに履修科目を登録し、原則として各科目の授業時間数の「3分の2以上」出席し、成績が60点以上であった場合に単位が認められる。
- (4) 単位の基礎となる授業時間

講時	1 コマの時間
1 講時	9 : 00～10 : 30
2 講時	10 : 45～12 : 15
3 講時	13 : 10～14 : 40
4 講時	14 : 55～16 : 25
5 講時	16 : 35～18 : 05

- (5) 試験期間内の時間
試験については別途スケジュールによる場合もある。
- (6) 授業時間の出席時数
出席時数の最終判断は、科目担当教員が行う。

3. 修了に必要な要件

- (1) 修士課程の修了のためには、大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ修士論文審査および最終試験に合格すること。

(2) 授業科目表と履修方法

【2024年度以後入学者】

基礎科目群	単位数	演習科目群	単位数
文化学研究方法論	2	日本語学演習	2
文化学研究実践論	2	日本文学演習	2
専門科目群	単位数	読書支援プログラム演習	2
日本近代文学特論	2	日中言語交流史演習	2
日本近代詩特論	2	インターンシップ	2
日本文学史特論	2	特別研究Ⅰ	2
日本語学特論	2	特別研究Ⅱ	2
漢文学特論	2	特別研究Ⅲ	2
日本語文法教育特論	2	特別研究Ⅳ	2
教育文化・システム特論	2	他研究科・他専攻科目	単位数
出版・情報文化特論	2	他研究科・他専攻科目	2～6
図書館情報文化特論(子どもとメディア)	2		
読書教育特論	2		
キリスト教文化特論	2		
ヨーロッパ芸術文化特論	2		
ヨーロッパ社会文化特論	2		
女性生涯設計特論	2		
女性健康文化特論	2		
テキスタイル文化特論	2		

〈履修方法〉

- ① 基礎科目群から4単位を履修。
- ② 専門科目群から8単位以上を履修。
- ③ 演習科目群から10単位以上を履修。うち特別研究8単位は必修、演習科目から2単位以上を選択必修とする。
- ④ 専門科目群、演習科目群、他研究科・他専攻の専門科目から8単位以上を履修、合計30単位以上を履修し、かつ修士論文審査および最終試験に合格することが修了要件である。

(3) 研究指導計画

各学年で定められた期間内に、学生は「研究指導計画書」に必要事項を記入し、主指導教員に提出すること。主指導教員によって交付された「研究指導計画書」のコピー5部を学生は定められた期間内に学事課に提出すること。

(4) 学位（修士）論文審査基準

論文審査

1. テーマについて

- (1) テーマは明確に提示できているか。
- (2) 研究テーマと関連する先行研究について整理検討がなされているか。
- (3) 研究テーマの設定理由を明確に説明できているか。
- (4) 研究テーマが独創的な内容を有したものとなっているか。

2. 論文の構成および論述について

- (1) 論文の構成が系統的・論理的であり、論旨が明解であるか。
- (2) 論述が正確で、研究論文としての質を有する内容であるか。
- (3) 論者の視点と他の研究者（先行研究関係者を含む）の立場を明確に区別しているか。

3. 方法について

- (1) 論証の方法が確実であり、結論に至る過程に無理がないか。
- (2) 論文で言及する資料等については学問的手続きを経て確立されたものであるか。
- (3) アンケートやインタビューなど倫理的な問題を含む研究の場合、適切な対処がなされているか。

4. フォーマットについて

- (1) 論文構成、注釈、書誌情報などの体裁は各学問分野で確立されているガイドラインに沿ったものか。
- (2) 図版やテキスト資料、あるいは表を論文に含む場合、本文を説明するものとして適切に提示されているか。

口頭試問

提出された論文は主指導教員1名、副指導教員2名による「口頭試問」に合格しなければならない。

「口頭試問」では、次のことが検証される。

1. 論文のテーマ、目的、結論、方法などについて口頭で説明できる。
2. 主指導教員、副指導教員による論文についての各種の質問に対して明確に回答し、論文の内容について適切な説明ができる。

評価基準

上記「論文審査」4項目を審査後、「口頭試問」を行い、その結果を総合して次の評価が与えられる。

- | | |
|-------------------|-----------|
| (1) きわめてすぐれた研究 | 90点以上 |
| (2) すぐれた研究 | 80点から89点 |
| (3) おおむね良好な研究 | 70点から79点 |
| (4) 一定の成果が認められる研究 | 60点から69点 |
| (5) 修士論文として不十分な研究 | 不可とし59点以下 |

4. 資格の取得に関する科目について

本専攻において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は次のとおりである。

研究科・専攻	免許状の種類	教科
人間文化研究科 人間文化専攻	中学校教諭専修免許状	国語
	高等学校教諭専修免許状	

〈教職課程履修方法〉（学則第40条関係）

- (1) 教育職員免許法第5条別表第1により専修免許状（国語）を取得しようとする者は、下表のとおり必要な単位を修得しなければならない。ただし基礎資格として修士の学位を有することが必要である。
- (2) 前項により専修免許状を取得しようとする者は、当該校種の一種免許状を有する者（免許状授与に係る必要単位をすべて修得済みの者を含む）でなければならない。
- (3) 履修にあたっては事前に履修指導を受けること。

【2022年度以後入学者に適用】

表 1

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数		備考
		中学校	高等学校	
大学が独自に設定する科目	日本近代文学特論	2	2	24単位選択
	日本近代詩特論	2	2	
	日本文学史特論	2	2	
	日本語学特論	2	2	
	漢文学特論	2	2	
	日本語文法教育特論	2	2	
	教育文化・システム特論	2	2	
	図書館情報文化特論（子どもとメディア）	2	2	
	読書教育特論	2	2	
	日本語学演習	2	2	
	日本文学演習	2	2	
	読書支援プログラム演習	2	2	
	日中言語交流史演習	2	2	
	比較教育学特論	2	2	
	比較教育学演習	2	2	

5. 登録について

- (1) 登録とは、毎年学年始めにその年度に履修するすべての授業科目を大学に届け出る手続きのことをいう。
- (2) 登録手続きは、4月始めの履修登録オリエンテーション後、指定の期日までにWEB登録するとともに、各自の受講科目一覧表・受講時間表等を提出することによって完了する。
- (3) 登録は、本人が責任を持って行うこと。代理登録は認められない。

6. 留意事項

- (1) 登録した科目でないと履修（単位修得）できないので注意すること。
- (2) 修了に必要な科目・単位を確保することに努めること。
- (3) 必修科目の単位を修得できなかったときは、当該科目を再履修しなければならない。
- (4) 同一番号の科目は、重複履修しても最初履修して合格した1科目の単位しか認められない。年度によって担当者・講義内容の異なる同一番号の科目も同様の扱いとなるので注意すること。
- (5) 二重登録は禁止する。同一講時に履修できるのは1科目のみで、2科目以上を登録することはできないので注意すること。
- (6) 登録書類の作成要領は登録時に説明されるが、各科目の内容については登録日までに講義概要（シラバス）を熟読しておくこと。
- (7) 時間割は、学生の個人的事情で変更されることはない。したがって履修科目の組み合わせに留意して計画をたてること。

7. 掲示および学生ポータルサイトによる通知・連絡について

時間割の変更、休講、補講、教室の変更、試験日程などの授業関係及びその他の通知・連絡は掲示または学生ポータルサイト（UNIPA又はmanaba）で行う。登校・下校の際は必ず掲示板に注意するとともに、定期的にポータルサイトをチェックすること。また、ポータルサイトについては、各自4月中にサイト内の個人ポータル画面からメール転送設定を行うこと。

(2) 2024年度開講科目表
人間文化研究科 人間文化専攻

〔2024年度以後入学者用〕

科目 コード	授 業 科 目	期間	単位	必修	配当 学年	担 当 者	備 考
【基礎科目群】							
280014	文 化 学 研 究 方 法 論	前期	2	○	1	藤 原 智 子	
280015	文 化 学 研 究 実 践 論	後期	2	○	1	青 木 加奈子	
【専門科目群】							
280030	日 本 近 代 文 学 特 論	半年	2		1・2		本年度休講（隔年開講）
280038	日 本 近 代 詩 特 論	前期	2		1・2	河 野 有 時	（隔年開講）
280039	日 本 文 学 史 特 論	半年	2		1・2		本年度休講（隔年開講）
280034	日 本 語 学 特 論	半年	2		1・2		本年度休講
280151	漢 文 学 特 論	前期	2		1・2	朱 鳳	
280040	日 本 語 文 法 教 育 特 論	半年	2		1・2		本年度休講（隔年開講）
280044	教 育 文 化 ・ シ ス テ ム 特 論	半年	2		1・2		本年度休講（隔年開講）
280046	出 版 ・ 情 報 文 化 特 論	前期	2		1・2	鎌 田 均	
280047	図書館情報文化特論（子どもとメディア）	前期	2		1・2	岩 崎 れ い	（隔年開講）
280052	読 書 教 育 特 論	半年	2		1・2		本年度休講（隔年開講）
280053	キ リ ス ト 教 文 化 特 論	後期	2		1・2	中 里 郁 子	
280054	ヨ ー ロ ッ パ 芸 術 文 化 特 論	半年	2		1・2		本年度休講
280055	ヨ ー ロ ッ パ 社 会 文 化 特 論	後期	2		1・2	青 木 加奈子	
280056	女 性 生 涯 設 計 特 論	半年	2		1・2		本年度休講
280057	女 性 健 康 文 化 特 論	後期	2		1・2	藤 原 智 子	
280058	テ キ ス タ イ ル 文 化 特 論	後期	2		1・2	安 川 涼 子	
【演習科目群】							
280115	日 本 語 学 演 習	半年	2		1・2		本年度休講
280120	日 本 文 学 演 習	後期	2		1・2	河 野 有 時	（隔年開講）
280117	読 書 支 援 プ ロ グ ラ ム 演 習	後期	2		1・2	岩 崎 れ い	
280119	日 中 言 語 交 流 史 演 習	後期	2		1・2	朱 鳳	
280061	イ ン タ ー ン シ ッ プ	集中	2		1・2	岩 崎 れ い	
280161	特 別 研 究 I	前期 集中	2	○	1	専 任 教 員	
280162	特 別 研 究 II	後期 集中	2	○	1	専 任 教 員	
280163	特 別 研 究 III	前期 集中	2	○	2	専 任 教 員	
280164	特 別 研 究 IV	後期 集中	2	○	2	専 任 教 員	

科目名英訳対照表

【人間文化専攻科目英訳】

人間文化専攻 Cross-Cultural Studies

科 目 名	英 訳
文 化 学 研 究 方 法 論	Culture : Research Methods
文 化 学 研 究 実 践 論	Culture : Practice-based Research Methods
日 本 近 代 文 学 特 論	Modern Japanese Literature
日 本 近 代 詩 特 論	Seminar in Modern Japanese Poetry
日 本 文 学 史 特 論	History of Japanese Literature
日 本 語 学 特 論	Japanese Linguistics
漢 文 学 特 論	Chinese Classical Literature
日 本 語 文 法 教 育 特 論	Japanese Grammar Education
教 育 文 化 ・ シ ス テ ム 特 論	Educational Culture and Systems
出 版 ・ 情 報 文 化 特 論	Culture of Information and Publishing Media
図書館情報文化特論（子どもとメディア）	Library and Information Science (Children and Media)
読 書 教 育 特 論	Reading Education
キ リ ス ト 教 文 化 特 論	Christian Cultures
ヨ ー ロ ッ パ 芸 術 文 化 特 論	European Art and Culture
ヨ ー ロ ッ パ 社 会 文 化 特 論	European Socio-Cultural Studies
女 性 生 涯 設 計 特 論	Seminar in Women's Life Design
女 性 健 康 文 化 特 論	Women's Health and Culture
テ キ ス タ イ ル 文 化 特 論	Textiles, Dyeing, and Culture
日 本 語 学 演 習	Graduate Seminar : Japanese Linguistics
日 本 文 学 演 習	Graduate Seminar : Japanese Literature
読 書 支 援 プ ロ グ ラ ム 演 習	Graduate Seminar : Reading for Children - History, Education and Promotion
日 中 言 語 交 流 史 演 習	Graduate Seminar : History of Linguistic Exchange between Japan and China
イ ン タ ー ン シ ッ プ	Internship Program
特 別 研 究 I	Independent Studies I
特 別 研 究 II	Independent Studies II
特 別 研 究 III	Independent Studies III
特 別 研 究 IV	Independent Studies IV